

第2回（仮称）第3次宇都宮市生涯学習推進計画策定懇談会議事録

- 開催日時 平成19年11月7日（水）午後2時～4時
- 開催場所 13A会議室
- 出席委員 14名（別紙1のとおり）
- 会議の公開・非公開の別 公開
- 傍聴者 1名
- 議事

(1) 報告事項

これまでの策定作業の経過について

(2) 協議事項

- ① 計画の骨子（案）について
- ② 計画の名称について

(3) その他

● 発言の要旨

① 計画の骨子（案）について

廣瀬会長

基本計画の骨子を作るのに担当はとても苦勞をしたと思います。私のほうで少し補足させていただくと、これは行政施策の計画ですから、市民にわかりにくく書かれているのはある程度仕方ないことです。それはなぜかという、宇都宮市全体の政策の中での計画なので、他の政策との整合性をとったり役割分担をしているからです。基本理念の中で人づくりを進めると書いてあるが、そこで「まちづくり」と書いてしまうとややこしくなる。市には「みんなでまちづくり課」があり、その所管のコミュニティセンターでも生涯学習は行われています。人づくりの方を重点的に書いた計画だと理解して下さい。

そもそも教育委員会には、人づくりを構造的に高めていき、しっかりした人間を育てていかなければならないという意識にあります。「教育委員会が根幹として人づくりを進めるのだ」ということで再度確認しておきたい。

今日の会議で決めることは2つです。この2つはなんとしてもある程度結論を出して終わりたいです。1つはこの骨子案について細かく意見を提言したい。もう1つは、計画の名称についての意見を集約したい。この2点です。

まず始めに計画の骨子について、まずは、4人ぐらいのグループになって話してもらいたい。事務局で、みんなの意見を記録してもらい、その記録をみんなで交換しましょう。

グループ協議（主な意見は別紙2のとおり）

廣瀬会長

それでは、事務局からポイントだと思ったところを3つか4つずつ発表して欲しいと思うのですが。

事務局

1班のご意見を発表させていただきます。資料3の基本理念の部分ですが、真ん中の行の「地域の子どもの育ちとともに」その部分がちょっとぼやけているので、もっとはっきりした表現にして欲しいという意見がありました。

また、こういった計画を策定するにあたって市民としてどこまで関われるのか。計画策定の後、現場にどのように伝えていくのかが疑問だという声もありました。

また、計画を策定するにあたり、行政の表現を使っていてわかりにくい部分があるので、広報したりする場合、市民の手を入れてわかりやすい、例えば出版社に添削してもらうなどの手法を取り入れたらどうかという意見がありました。

名称については、あまりこだわらず、その代わりタイトル・副題をつけわかりやすいものを作成して欲しいという意見がありました。

廣瀬会長

ありがとうございました。ポジティブな意味で驚きました。こういった計画を作ったときに、市民はどうするかということをきちんと書くべきだというのは素晴らしいご意見だと思います。まさに、市民参画というのは役所に何かしてもらうことではなく、我々は何をするかということを考える、それが入っていないということです。そこは行政としては書きにくいと思うので、我々が言うべきことです。

事務局

2班では、人間力というのは新しい言葉なので定義づけが必要なのではないか、その中で道徳心が足りないのではないかという意見がありました。

また、横文字についてはわかりにくいものは直す、ということや、計画を読んでみて、例えばボランティアの方が講座をすればどういう講座を市では認めているのか、というところを示して欲しい。例えば、行事を企画するリーダーを育てるという部分がそれにあたるのではないだろうか、という意見がありました。

学校との関係で、魅力ある学校づくりの話があったのですが、計画として作るのはいいが、学校で実際に実行するとなると、先生に出て来てもらわないといけない、という現状があるので、実行性について考えた方がいいのではないか。それから企業の参加などについても意見が出ていました。

続いて3班の意見ですが、まずはまちづくりという言葉に対して。まちづくりといっても、生活環境の物的面まで含めたまちづくりとは違うものなので、ちょっとここでは違和感がある。そうであるな

らば、コミュニティのリーダーづくりといったことを中心に取り組んでいくのだということを、基本施策の説明の部分にでも入れればわかりやすくなるのではないか、という意見がありました。

他には、目標や事業をみても、まだ欲張りな感じがする、あれもこれも盛り込まれすぎなので、もう少しやることや目標を絞り込んでもいいのではないか、という意見もありました。

また、全ての底辺にあるのはこういったことが実現できる安定した社会であり、それには相手を尊重する気持ちが大事なのではないか、という意見がありました。

その他、概要にある目的や書き方については明確である、という意見もでております。

親学的な部分では、親が本気で向かい合うことが大切という視点を入れて欲しい、という意見がありました。

廣瀬会長

ありがとうございました。広報をする時や、ダイジェスト版を作る時、ちょっと表現を工夫する必要があると思いますね。言葉については、人間力の説明が必要だと。最近、教育委員会ではスタンダードという言葉が多いようですが、宇都宮の生涯学習のスタンダードになるかもしれないのが人間力ですね。

学校との関係もその通りです。学校本体の話というよりは周りの話になるが、まちづくりという視点も重要だと思うので、書きにくいところもあるだろうが、生涯学習課で考えるまちづくりという視点も、是非この説明に入れて欲しい。

課題解決のためだけでなく、相手を尊重する気持ち・心がきちんと核に据えられていないと、教育委員会の計画とはいえない。

もっと、ずっと未来を見据えた計画であるべきです。100年、200年後を考えた時、今の子ども達に、どんな気持ちを持たせるべきかを考える視点が必要だと思うので、相手を尊重する気持ちといった視点を大事にして計画を作って頂きたい。

みなさんからこういう意見が出ましたが、全体的な部分で3人ぐらいの方に発言してもらいたいと思います。

伊藤（昭）委員

ともかく、余計な言葉が多すぎる。この言葉を省くと意味がおかしくなるか、という基準で語句を省いて欲しい。そうすればかなりわかりやすくなる。

人間力の向上がポイントとあるが、この程度の書き方でいいのだろうか。人間力があるというのはどんな人間なのかをはっきり示した方が良い。その上で、どんな学習をすべきか、どんな政策を立てればいいのかという話になる。したがって、人間力があるとは、どんな人間であるということなのか、我々を含めて大いに議論しなければならない。

横文字に関しては、もちろん、日本語に出来ない場合は仕方ない

が、日本語にした方がいい語句もあるだろう。

もう一つは人財育成について。少し違和感がある。なかには材料の「材」を使っている場合もあるので、あまり奇を衒わずに材料の「材」でいいのではないか。

廣瀬会長

行政としての文章統一という面は、内部で十分チェックすべきところだろう。

伊藤（誠）委員

魅力ある学校づくり・子どもの居場所などについて、今までは学校の教育に関することは別格であったが、今後は地域と一緒にやっていかなければ本当の教育はできないというところ。行政で計画そのものは作ることが出来るが、実際、実行性となると難しい面がある。例えば、夜の会議に校長・副校長なら出る責任を感じるだろうが、一般の先生がなぜ出る必要があるのか、ということになると難しいだろう。そういった実行性という面では十分検討していかなければならないという意見もありました。地域では、日中働いている人がいるので、集まるとすれば夜です。そうすると、役所の人も夜に来ます。仕事が5時で終わっても、地域の会合がある時は地域に来る。うちの戸祭地域を担当している藤田さんも、「地域とのコミュニケーションを図らないと、これから困る。」と言って、地域の会合が7時から始まる時も夜9時までいてくれる。学校の先生も、駆り出される（という用語弊があるかもしれないが）となると、その辺りの関係性もよく理解していないと、地域との誤差が出てしまうのではないかと思う。

廣瀬会長

他に、誰かご意見ある方いらっしゃいますか？今回から来られた藤本さん、感想でもいいのでどうぞ。

藤本委員

今回、資料は読ませていただいて来たのですが、内容が多いので、一市民としては、もうちょっとわかりやすい見方で見えないのかな、と思いました。チラシなども、パッと市民に見てもらえるようなものにしてもらえるといいのかな、と思いました。

山島委員

全体的に見ると、非常によく書いてあるが、文書は残念ながら分かりにくいですね。ひとつの文章で書ききろうとするから分かりにくくなるので、箇条書きにするとか、文章を細かく分けると分かりやすくなると思う。いい内容でも文章がさっと頭に入らないと、せっかくなの内容も分かりにくくなる。

まちづくりでも言ったことなのだが、人間力という定義も、教育委員会が生涯学習でやるものと他のところでやっているものを（一緒に）無理して書いているからわかりにくいのであって、（教育委員会では）このうちここだけやる、あるいはこの部分を担当すると明言すれば、目的に関してはある程度わかりやすく書くことが出来

る。やることだけ繋ぎ合わせているから目的がわかりにくくなるのだと思う。やる所をきちんと分けていけば、もう少しわかりやすくなる。役所だから、双方で同じことをやらないよう気を使うのはわかるが、自分たちはここを中心に書いていると認識すれば、もう少し整理しやすいのではないだろうか。

福田委員

魅力ある学校づくりなど、もっと思い切ったことを書いたらどうかと思いました。個々の関係とか実行性という問題はあるだろうが、やはり今やることは10年先、20年先に効いてくることだと思うので、学校との関係は難しいだろうが、地域で子どもを育てるために先生方も地域の子どものことを考えなければならぬし、地域に子どもの受け皿や大人の受け皿をどんどん作っていかねばならないと思うので、ここは勇気を持って書いてもいいと思います。理念とか実行性という点で少し薄いかもしれないが、これを目指すと言ってもいいのかなと思いました。

伊藤（誠）委員

資料3の生涯学習の課題の4番目の中で、市民・地域・企業・行政等と書いてあるが、具体的には企業のことに関しては何も書かれておりません。企業からと言ってもなかなか難しいと思うので事例を紹介しますと、戸祭地域では、大人向けの文化祭でこんなことをやりました。地元の看護学校の生徒に、地域のために血圧の測定を手伝ってこないかと依頼したところ快く引き受けてくれて、おじいちゃん・おばあちゃんの血圧測定や、いろいろなアドバイスもしてくれました。それからその文化祭で骨密度の測定のコーナーも作ってくれました。森永牛乳で骨密度測定の機械を持っていて、資格を持った専門家もいるので、病院でやると2,000円くらいかかる測定をその文化祭ですてくれたので大盛況でした。地域が上手く企業を使っていくと言っては語弊があるが、地域と一体となって催しをやると、みんなが喜んで参加してくれる。今回、特に骨密度の測定は大成功でした。

綱河副会長

個人としての意見を述べさせていただきたいと思います。

一番大事なことは、足利市民に対するのでも、小山市民に対するのでもなく、宇都宮市民に対する計画だということが大前提でなければならないと思う。どこでも通用する計画ではなくて宇都宮独自の計画であるべき。具体的には、宇都宮市民としてのアイデンティティ（また横文字になってしまいましたが）、宇都宮市民としての自覚と誇り、宇都宮市民でよかったと思ってもらえるような行政としての目的を持った施策事業、そして理念が必要になると思う。

先日、うつのみや美術館の評議委員会に参加してまいりました。現在、ノリタケの100周年記念ということで展示会を開いていますが、古田土雅堂という宇都宮に居住した人がノリタケのデザインに貢献しているそうです。彼は茂木町出身で、アメリカから戻った後、

宇都宮に居を構えたそうです。実は、戸祭に住んでいたそうなのですが、かの有名なノリタケのデザイナーの1人が、宇都宮に縁のある人であったという話を聞き、非常に感銘を受けました。自宅に帰ってからインターネットでいろいろ調べてみたのだが、やはり宇都宮独自の歴史・文化・伝統についてしっかりと勉強する、(という語弊があるかもしれないが、) そういう方向性も施策事業の点では必要だと思う。やはり宇都宮市独自の計画であるべきだと思った。

廣瀬会長

文化というのは、そこに住む人々の気持ちを統合に向かわせるエネルギーを持っている。地域の価値を共有する方向に持っていくんです。生涯学習の計画の中にも、文化的な香りのするものを盛り込んでいく必要がある。文化は実は様々な機能を持っています。単にゆとりがあるという話ではなくて、むしろゆとりを作るパワーを持っているんです。ゆとりのある人が文化に携わるのではなく、文化に携わることによってゆとりが出来、地域のコミュニティが活性化していく。文化的な価値、何より宇都宮美術館は全国どこに出しても恥ずかしくない美術館ですから、宇都宮美術館のような優れた文化性をどこかに活かしていきたい。

山島委員

今副会長も言ったのですが、宇都宮・栃木県の人々は、自分たちの良いところをあまり言わず、けなしてばかりいる。私が出向していたある県では、自分たちの良いところばかり言う県もあるんですよ。

生涯学習でも学校教育もそうなんですが、宇都宮の良いところをちゃんと親が自身を持って、子どもたちに教えないといけない。例えば、釜川という川を知らない人は多いが、いろんな問題点はあるにせよ良い川なんですね。それを学校などで、(釜川は)素晴らしい川なんだときちんと教えているかどうか。悪いところはみんなよく知っているが、良いところをきちんと教える、そういったことを生涯学習でもきっちりやっていくべき。愛着を持たない限り、まちは良くなるらないので、そういった点をきちんとやってほしい。

綱河副会長

本当にその通りだと思いました。いろいろな面で、宇都宮市民は宇都宮に足をおいていない気がする。実際は、宇都宮に住んでいるのに、どちらかと言えば東京に(意識が)向いている。私は豊郷地域に住んでいるが、例えば、地域生涯学習センターなどで、豊郷地域はこれだけ素晴らしいものがあると、市民により多く知ってもらうことが必要だと思う。

具体例になるが、長野県民は、県民の歌を誰でも歌うことが出来る。先ほど、ちょうど3時に市役所内でも宇都宮の歌が流れていたが、これは市政60周年の時に作った歌で、私も小学生の時いろいろな場で聞いて歌った記憶がある。そういった愛着心・誇りを行政

の目的として盛り込むべきだと思う。

伊藤（昭）委員

そういう意味では、人間力のところで具体的に市内の文化財・遺跡に愛着心を持つと定義すれば、そういったものを知りことも求めているのだとわかり、それに応じた講座を開くことも出来ますよね。市が求めている人はこういう人だと、人間力の中に入れてもらえれば非常にわかりやすいと思う。

廣瀬会長

うちの大学だと人が集まらないが、中央生涯学習センターで地元学をやると 50 人くらい集まるんですね。戸祭でも、地域の人たちが地元学ということで 10 人くらいで地域の地図を作った。やはり地元が好きだと確認しておかないと。地元の好きなところを大事にするという意識が必要です。最近、城山では「大谷学」など、地域学や地元学をやる場所が増えてきたので、山島先生がおっしゃるような方向にはなりつつあるのだと思います。

②計画の名称について

廣瀬会長

名称について事務局がこう提案してきたということは、（現状が）生涯学習推進計画ではない方向・内容になっているため、実態と合わせたいという意図が働いた上でのことだと考えていただきたいと思います。

歴史を見ると、もともと生涯学習という理念が政策化される前、社会教育計画という言葉が法律にあり、社会教育計画は、行政が立案するという流れでした。社会教育計画から、生涯学習を政策化したものが生涯学習推進計画です。多少ニュアンスは変えながらも、少し計画の意味合いも変わって来ているので、この際、名称を変更したいという意図があると理解しています。ここで結論を出すよりは、みなさんの意見や感想を少しお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

松江委員

1次2次の生涯学習推進計画が進んできて、それに繋がるものだということがわかる内容なら、第3次という大雑把なものでもいいと思ったが、これではあまりにも色気がないというか、やはり目標とするところは「人づくり」なので、「人づくり」という言葉は、サブタイトルでも何でも是非入れたいなと思っています。「宇都宮市人づくり推進計画」などもシンプルでいいかとも思ったのですが、要するに計画全体に対して求めるところは、みなさまのご意見でもあったように「宇都宮で人づくりとはなんぞや」ということだったと思うので、(3)、(4)、(5)あたりで。

福田委員

個人的には(3)、(4)がいいと思いますが、生涯学習推進計画・社会教育推進は計画の名称に関する歴史的背景がありますよね。その点、地域教育という言葉は他の計画の中での扱われ方や、一般的

な言葉の印象などはどうなのでしょう。

廣瀬会長

全国的な傾向では、社会教育から生涯学習へと大きく変化しているが、ずっと社会教育のままのところもいくつかある。むしろ（生涯学習から社会教育へ）戻ったところもあります。市町村の課の名称から言うと生涯学習課が圧倒的に多いが、それでも30ちょっとで、大勢を占めているわけではない。例えば、山形県はいろいろな課を合併して「教育やまがた振興課」、大阪は「市民学習課」、新宿区は「地域教育係」、大阪府の寝屋川市でも「地域教育課」、東京都では「地域教育プラットフォーム構想」というのがあり、今、地域教育というキーワードは、少し先鞭をつけているという印象がありますね。

全国的な傾向をこのように調べてみましたが、地域教育係というのが出来たりしているのは事実ですね。北海道石狩市には「地域教育室」というのがあり、学校やコミュニティも包括的に考えていくという意味で、そういう言葉を使うところが多いようです。或いは社会教育に戻すということもあります。そういった流れを考慮すると(3)、(4)、(5)あたりが割と(いいと思う)。人づくり計画というのも実際ありますが。

山島委員

標題というと、第3次宇都宮市生涯学習推進計画、こういうのを最初にしているのかもしれませんが、(逆に)ひらがなを標題にして、副題を第3次宇都宮市生涯学習推進計画にした方がわかりやすいと思う。

大塚委員

中学2年生にやる職場体験を「うつのみや宮っ子チャレンジ」と呼んでいるのですが、子ども達が宮っ子チャレンジという言葉に対して割と誇りを持っているんですね。だから例えば「宮っ子人づくり」など、そういう標題に、サブタイトルとして第3次～をつければ、「宮っ子」という言葉自体が浸透しているものなので、10年20年先を見据えた上で、子どももとつきやすいタイトルかなと思います。

廣瀬会長

みなさんの意向が少し見えてきたところがあるのですが、私たちは計画の名称について、まだ普段から考えているわけではないので、少し易しくやわらかくということと、(3)(4)(5)あたりで、というのが全体の意見ということでしょうか。

行政の計画の名称については、我々が決めるというよりも、他の計画との並びの中で決めなければならないという、ややこしい構造になっているので、このくらいで我々の意見として、あとは事務局で案を出していただければと思っています。

そんなところで議題の1と2を終了しようと思いますが、よろしいでしょうか。

その他は、次回の開催日は1月21日ですのでご確認下さい。
進行を事務局に戻します。

課長補佐

以上を持ちまして第2回懇談会を終了いたします。
みなさま、お疲れ様でした。

宇都宮市生涯学習推進懇談会出席者名簿（平成19年11月7日）

No.	氏名	該当号	備考
1	櫛淵 澄江	1	宇都宮市地域婦人会連絡協議会 会長
2	塚田 栄一	1	宇都宮市子ども連合会 会長
3	若度 哲久	1	宇都宮市 PTA 連合会 会長
4	伊藤 誠	1	宇都宮市地域まちづくり協議会連絡会議 議長
5	松江 比佐子	1	チャイルドラインとちぎ 副理事長
6	◎廣瀬 隆人	1	宇都宮大学 教授
7	○網河 秀二	2	市議会議員
8	山島 哲夫	2	宇都宮共和大学 教授
9	八代 圭二	2	NHK 文化センター宇都宮支社 支社長
10	藤本 いづみ	3	V・G すずめ 事務局次長
11	田辺 勇治	3	東京ガス株式会社宇都宮支社 支社長
12	伊藤 昭一	3	公募委員
13	大塚 知子	3	公募委員
14	福田 有見子	4	公募委員

◎：会長，○：副会長

第2回懇談会グループ別協議の結果

グループ①（榑淵委員，塚田委員，大塚委員，福田委員，記録者：高坂）

- ・ 基本理念について、「…地域の子どもの育ちとともに…」の部分がぼやけているので、もっとはっきりした表現にする。
- ・ 市民としてどこまで計画に関われるのか。
- ・ 計画に関して、広報やチラシにも市民の手をかりて出版社に添削してもらうなどして、わかりやすくする。
- ・ 計画に書いてあることについて、地域のコミュニティでは、ここまでできない。
- ・ 名称は特にこだわらない。副題に変化をもたせるとかはどうか。
- ・ 新聞では、中学3年生にわかるようにしている。
- ・ パブリックコメントは、身近に感じてもらえない。どれほど反応があるか疑問。
- ・ 外部の者（職員以外）でも市政に意見を活発に言える環境を整えてほしい。
- ・ 学校と地域の行事など、いつも同じメンバーになる。
- ・ 学校に意見しようと思っても、めぐりめぐって自分の子に不利益が及ぶのかと思うと意見もできない。
- ・ 宮っ子ステーションは地域の基盤がないとできない。生涯学習ボランティアなど、年齢には関わらず、学びを地域へ。

グループ②（若度委員，伊藤（誠）委員，田辺委員，伊藤（昭）委員，記録者：山崎）

- ・ 全体としては、やりたいことがはっきりしてきていいと思うが、難解な文章なので文章を作るときには読み流せるようスッキリとするように。
- ・ 「人間力」という言葉は昔からあるものでない。資料3に人間力のポイントとあるが、それでいいのか。「道徳心」が入ると思うが入っていない。
- ・ 資料3の「施策検討の視点」は資料4には入っていないので入れるべき。
- ・ 「人財育成」とあるが、辞書を引いても出てくる言葉ではない。「人材」でもいいのではないか。
- ・ 修飾語など、余分な語句が多い。
- ・ 横文字がわかりにくい。（コミュニティやボランティアは浸透してきている。）
- ・ 言葉の定義をすることで、課題や方針と事業への結びつきをよくする。
- ・ 新しい言葉も市全体で使っていくのならよい。
- ・ ボランティアにもどういう人材が必要だとか講座を求めているかなど、示してほしい。
- ・ 地域で事業をやるといっても地域差がある。企画するリーダーを育てることが必要。そうすることにより、地域でもできるようになる。
- ・ 今までは学校は治外法権だったが、これからは学校を巻き込んだ地域ということでやっていかなくてはならない。
- ・ 学校の難しいところは、現状では先生が出てこなくてはならないところ。
- ・ 校長や副校長は責任を感じて出てくる。一般の職員は負担感を持つ。

- ・ 計画ができて、進められない現実があるのでそういうところまで考えてほしい。
- ・ 企業との連携では、宮っ子チャレンジウィークでやっているところがある。
- ・ 父親の参加については、全国的に不満になっていること。
- ・ 昔は家のことは全て母親だったが、男女共同参画でだんだんと父親も家事とかをやるようになってきているが、まだまだというところ。

グループ③（松江委員，山島委員，八代委員，藤本委員，記録者：細内）

- ・ 個別課題③の足りないところの意味がわからない。特に何をとらえてまちづくりといっているのか。
- ・ まちづくりという言葉の中でも限られているなら「コミュニティづくり」と言い換えてみればいかがか。
- ・ 全ての底辺にあるのは安全な社会。そうしたベースが作りえるのか心配。
- ・ まだ欲張りな感じがする。あれもこれも盛り込まれすぎか。
- ・ やることや目標も多すぎるような気がする。総花的。実施するときは各課の事業をまとめて（連携して）行うなどの注意書きがあるとよい。
- ・ すべては相手を尊重する気持ちではないか。概要のほうは目的が明確に出されていると思う。
- ・ 骨子（案）の1ページの目的の文章は見直しを。箇条書きにするなどして短くわかりやすく。主語も混乱しているのではないか。大事なところだし。
- ・ 生活環境の物的面まで含めたまちづくりとは違う、違和感がある。
- ・ 「コミュニティのリーダーづくり」を中心に上げたということを基本施策の部分の説明文の中に入れるとわかりやすくなるのではないか。
- ・ 親が子どもに本気で向かい合うことが大切。そういった視点も入れてほしい。